

「長久手市非核平和都市宣言（案）」についてのパブリックコメントの実施結果

長久手市非核平和都市宣言にあたり、市民のみなさんからご意見をいただくためパブリックコメントを実施しました。

ご意見をいただきありがとうございました。

次のとおり結果を公表します。

- 1 意見募集案件名
長久手市非核平和都市宣言（案）
- 2 募集期間
平成25年9月24日（火）から平成25年10月23日（水）まで
- 3 閲覧場所
市役所本庁舎2階行政課、市役所西庁舎1階情報コーナー、市ホームページ
- 4 募集結果
18人 38件
- 5 提出された意見及び意見に対する市の考え方
別添のとおり

事項	No	ご意見の概要	市の考え方
賛成意見 11	1	宣言することに大賛成賛同する。(友人が広島 島の被爆で長年病弱で苦しんでいる。)	本宣言の理念及び目的 は、本市が戦争のない社会 と核兵器の廃絶を願い、平 和の実現をめざし、平和の 願いを新たにするもので す。 宣言後は、その理念に基 づき、取り組んでいきたい と考えています。
	2	すばらしい案をありがとうございました。 「あらゆる不幸を束にしてもたらず戦争」に 母・祖母の名において反対する。ひとたび戦争 が起これば、一番先に切り捨てられるのは「福 祉」である。「非核平和都市宣言」を心より支 援する。	
	3	宣言することに大賛成賛同する。	
	4	宣言することは、大変良いことと思う。	
	5	宣言することについて賛成です。一日も早い 制定を願っている。	
	6	非核平和都市を宣言されることに敬意を表 する。周辺の都市が早くから宣言されているの に何故、長久手市はしないのかと思っていた。	
	7	長久手市が非核平和都市宣言をすることは 大変うれしく、賛同する。	
	8	長久手の「宣言」を待ちかねていた。この度 その気になられて大変うれしい。	
	9	いつ宣言をしていただけたのかと思ってい た。賛同する。	
	10	非核平和宣言を出すことは大切である。	
	11	「長久手市非核平和都市宣言」を行うことに 大賛成である。 このような時期に、長久手市が非核平和都市 宣言を行うことは非常に意義のあることだと思 う。 「長久手市非核平和都市宣言」をきっかけ に、私自身も平和について考え、自分だけでな く、未来の子どもたちに、今ある美しい長久手 のまちを故郷として残していく努力をしてい きたい。	

福祉に関する記述について	1 2	福祉宣言ではないので、「日本一福祉のまち」は削除すべき。	いただいたご意見を参考に文章の見直しを行いました。
	1 3	最初の2行は、要らないような気がする。	
	1 4	「日本一福祉のまちをめざす長久手市は、幸福であることを求めます。」の出だしについて、もってもらしいが、現市長の「選挙公約」から出た言葉であり、まだ、市民全体の共通認識にならず、市長の選挙公約の範囲でしかない。しかも、未だ具体性に欠けることから、核廃絶を究極の彼方に押しやることにみえる。	
	1 5	最初の2行は、宣言文としてふさわしくない。理由は、この内容は現吉田市政のキャッチフレーズであって、市長が交代したら変わる内容である。福祉と幸福という表現は違和感がある。宣言文としては、将来にわたっても通用する普遍的な文言にすべきだ。 例文 最初の2行 「世界の平和は人類共通の願いであり市民が平和に暮らすためには、世界が平和であることが大切です。」	
	1 6	宣言（案）では、最初に「日本一福祉のまちをめざす・・・」の2行は唐突な印象である。削除した方が適切だと思う。	
	9 1 7	宣言（案）の文頭2段は、宣言文の文頭としてはふさわしくないと思う。	
	1 8	1行目の主語「長久手市は」は、やめてほしい。「日本一の福祉のまちをめざす」はますます不都合である。普遍的ではない。	
	1 9	「日本一の福祉をめざす長久手市は、」の次に「すべての市民が」を入れるとよい。	
	2 0	「日本一の福祉をめざす長久手市は、」の次に「すべての住民が」を入れた方がより文意がはつきりする。	

4 具体的取組みを踏まえた記述変更について	2 1	<p>世界の平和と安全は全世界の共通の願いであり、長久手市民だけが幸福、平和に過ごすことではないはずである。さらに、戦争のない社会、核兵器の廃絶は“願い”ではなく、その実現のために不断の努力を続けて行かなければならない課題である。その決意が宣言文では少々弱い気がする。</p>	<p>世界の平和と安全は全世界の共通の願いです。</p> <p>本宣言は、平和への想いを育み語り継ぐためのものとするため、非核平和に対する姿勢・精神を重視した記述としました。</p> <p>宣言を踏まえた具体的な活動は、今後、いただいたご意見を参考としながら検討していきます。</p> <p>なお、いただいたご意見を参考に「核兵器の廃絶を願い」を「核兵器の廃絶を真に願い」に、「市民の平和の実現をめざしていかなければ」を「平和の実現をめざさなければ」に文章の見直しを行いました。</p>
	2 2	<p>全世界が平和を願い求めている旨、そのために長久手市も努力する旨、書き表してほしい。</p>	
	2 3	<p>行政と市民が今後何をしていくかが、盛り込まれていない。戦争放棄をうたう憲法9条を堅持して、戦争体験を語り伝えることが、普通の生活を堅持できる平和だと思う。</p> <p>「戦争放棄をうたう憲法第9条を堅持して、戦争体験を語り伝える」を入れてほしい。</p>	
	2 4	<p>長久手市が、戦争の無い社会と核兵器の廃絶を国際社会に発信し働きかけ、また平和な社会の実現に向けて努力していく決意を謳うべき。</p> <p>「市民がしあわせ」、「市民の平和の実現」や消極的な「平和の願いを新たにする」の記述は宣言とは程遠いと思われる。</p> <p>恒久平和の実現を目指すには、願ったり求めたりでなく、市民自ら考え、実行していく決意を宣言に表明すべき。</p>	

5 原発を含む核への記述変更について	25	<p>「戦争被爆国」→「被爆国」 「核兵器」→「核」 「努力することを決意する」旨を入れてほしい。</p> <p>例文 9行目 「こうしたなか私たちは、世界で唯一の被爆国の国民として、戦争のない社会と核の廃絶、市民の平和を実現するために努力することを決意します。以下案とおり」</p>	<p>「被爆国」、「核」という表現は、核実験による被爆や原発事故での被爆も含まれると考えられ、日本は、戦争で被爆した唯一の国であることからそれぞれ「戦争被爆国」、「核兵器」としました。</p>
	26	<p>9行目の「核兵器の廃絶」は福島原発での爆発により、核が放出され放射能被曝が問題となっているし、核廃棄物の処理もできない状態である。「核兵器の廃絶」は「核の廃絶」の方が「非核平和宣言」にふさわしいと思う。</p>	<p>東日本大震災は、平和への脅威が戦争だけでないことを気付かせましたが、原発そのものが平和への脅威ではないため、「核兵器の廃絶」としていません。</p>
	27	<p>下から4行目、「核兵器」だけでなく、原発も、人類のみならず地球上の全生物にとって迷惑千万である。「3. 11」以後はそういう積極的な自治体が増えていないか。原発を含む「核の廃絶」としてほしい。</p>	
	28	<p>原発を含むすべての“核”という意味で「核の廃絶」としてはどうか。</p> <p>例文 全世界の平和と安全は人類普遍の願いであり、市民が平和にくらすためには世界が平和であることが大切です。</p> <p>中略 こうした中私たちは、被曝国の国民として戦争のない社会と核の廃絶、市民の平和を実現するために努力していくことを決意し、長久手市は平和の願いを新たにするとともに「非核平和都市」を宣言します。</p>	<p>東日本大震災は、平和への脅威が戦争だけでないことを気付かせましたが、原発そのものが平和への脅威ではないため、「核兵器の廃絶」としていません。</p> <p>自ら文案を作成され、非核平和を願われる思いに敬意を表しますとともに、ご意見は、今後の取組の参考とさせていただきます。</p>

非核を訴えるとき、3. 11 福島の原子力発電所の事故に触れないのは、同じ国民としていかなものか。また、「市民の平和」というのは違和感がある。「平和」という言葉は社会の状態を表す言葉だと思うので、「平和なまち」とした方が良い。この点を取り入れた文面の例として次に記すので参考にしてほしい。

長久手市は日本一の福祉のまちをめざし、幸福度の高いまちです。

しかし、私たちは、3. 11の福島第1原子力発電事故により、多くの人々が故郷を失うという現実を目の当たりにしました。平和利用として容認されてきた原子力発電所さえ、このような核の脅威にさらされるということを学びました。市民が幸せに暮らすためには、世界の平和が大切であることを改めて強く認識しました。

しかし、今なお世界各地では、武力紛争が絶えず、さらに核兵器の存在が、平和に向かおうとする意志を阻害しています。

こうしたなか私たちは、世界で唯一の戦争被爆国の国民として、戦争のない社会と核兵器の廃絶を願い、平和なまちの実現をめざしていかねばなりません。

ここに長久手市は、平和の願いを新たにするとともに、「非核平和都市」であることを宣言します。

2013年 月 日

長久手市

文意について 2	30	<p>戦争の無い社会と核兵器の廃絶は、「私たち」一人ひとりが人として願うものだから、「国民として」ではなく、「国民」を削除して文書を練り直した方が適当である。</p>	<p>戦争のない社会は、人類すべての共通の願いであり、普遍の目標です。「国民として」は、「世界で唯一の戦争被爆国」を受けるものであり、国際的に唯一の立場を強調したものです。</p>
	31	<p>「さらに核兵器の存在が、平和に向かおうとする意思を阻害しています。」この「阻害」の言葉はふさわしくないし、表現も正しくない。「阻害」を辞書で調べると、「じゃまをして物事を進行させないこと」とある。「核兵器の存在」は絶対でなく、じゃまをしているのは、核兵器を保持している国々の指導者であり、核廃絶を宣言すれば無くしていくことが出来るものである。日本でも核兵器廃絶を求める運動は全国各地で粘り強く行われている。毎年、8.6.9の原爆の日には原水爆禁止世界大会も行われ、それに先立ち5月の始めには、国内で原水爆禁止世界大会成功を願って全国平和行進も行われている。ここは、「核兵器の存在が世界平和を脅かしている」という様な表現であるべき。</p>	<p>いただいたご意見を参考に、「核兵器の存在が、平和に向かおうとする意志を阻害しています」を「核兵器の存在により、人類がその脅威にさらされています」に修正しました。</p>
その他 7	32	<p>当市にはこの地が凄惨な戦場になった歴史がある。そのことが宣言文には触れられていない。そういう歴史を持つ市だからこそ一層平和の尊さを思う気持ちが強いという趣旨を宣言文に表現すべきではないか。</p>	<p>いただいたご意見を参考に文章の見直しを行いました。</p>

その他 7	33	本宣言について行政側が偏狭すぎるのではという感を持っている。そして市民感覚を逸脱した宣言とも見受けられる。今優先すべき課題が等閑になっている現状での本宣言には非常に違和感があり、よって反対の意を表す。	平成25年2月1日、国内外の都市と連携を図り、核兵器の廃絶と恒久平和の実現を進めるため、平和首長会議に加盟しました。加盟1年を機に、今後は、世界中の平和首長会議に加盟している団体とともに、「核兵器のない世界」を目指す一員として核兵器の廃絶を求めていくことから、非核平和都市宣言を行うこととしました。
	34	非核平和都市宣言をなぜ、今するのか。	
	35	自治基本条例が公布されてからでも遅すぎることはないのではないか。	自治基本条例につきましては、これから市民のみなさんと一緒に作っていくこととしています。
	36	県内有数の犯罪件数である長久手が、官民挙げて「非犯罪平和都市宣言」を目指す市であることを希望する。	ご提案の趣旨をくみ取り、今後の取組の参考にさせていただきます。
	37	平和憲法も市をあげて守りたい。	平和憲法である日本国憲法は、遵守すべきものであると考えます。
	38	3.11大震災と福島原発事故を経験したことから、吉田市長は「絆」を強調している。未曾有の事故を体験した日本国民として、長久手市民としてこの教訓を取り入れた宣言文章とすべき。	本宣言は、平和への想いを育み語り継ぐためのものとするため、非核平和に対する姿勢・精神を重視した記述としました。

長久手市非核平和都市宣言（案）

長久手市民は、戦争の悲劇を後世に伝えるため、古戦場を歴史的文化遺産として大切にしてきました。

しかし、今なお世界各地では、武力紛争が絶えず、さらに核兵器の存在により、人類がその脅威にさらされています。

こうしたなか私たちは、世界で唯一の戦争被爆国の国民として、戦争のない社会と核兵器の廃絶を真に願い、平和の実現をめざさなければなりません。

ここに長久手市は、平和の願いを新たにするとともに、「非核平和都市」であることを宣言します。

平成 年 月 日

長久手市